

## 「トンガ王国における南太平洋医療隊の歯科保健の活動」

南太平洋医療隊 河村康二

<http://spmt.jp/>

### 【要約】

先に第 15 回歯科保健医療国際協力協議会において「トンガ王国における歯科保健プログラム」について報告した。

トンガ王国の歯科事情については、私達はトンガ王立バイオラ病院歯科室で保存可能な永久歯の抜歯、器具材料不足による保存処置の不備、予防歯科及び教育の不足を眼にした。2001 年の調査結果から 1 2 歳児 DMFT 本島 4.85 離島 2.60、齲蝕有病者率本島 89.4% 離島 70.0%であった。食生活調査では本島では近代的な菓子類の摂取や甘味飲料が常飲されているが離島では伝統的な食品（イモ類）が好まれていた。

南太平洋医療隊は 1998 年より、保存処置の為の器具材料の供給を行うと共に、トンガ健康省歯科室に呼びかけ幼稚園、小学校における歯科保健事業を展開した。2004 年現在本島 2 幼稚園、11 小学校、離島 3 幼稚園、3 小学校で実施している。その主たる活動は歯科健診、歯科保健指導、フッ素洗口である。

2003 年、齲蝕と食生活調査の結果から歯周組織に関する調査の必要を考え現地に合った歯肉炎のより合理的な評価方法確立を目的とした活動を行った。

歯肉炎の評価は歯科医師が自然光の下に次の 2 法で行った。1) 視診：基準となるカラー写真をもとに 4 段階に分類。2) 出血の有無：検診者が歯ブラシで前歯歯頸部歯面をバス法にて 5 ストローク程度刷掃後に出血の有無を判定。参考として日本の K 市公立小学校を対象に同法にて歯肉炎評価を行った。

表 トンガ王国学童における歯肉炎評価（10歳～12歳, 男女計）

歯肉炎評価方法	地区分類		
	トンガタブ本島 (町)	トンガタブ本島 (村)	リフカ島 (村)
視診	n=158	n=355	n=127
Normal	46.2%	48.5%	59.1%
Mild	38.6%	35.5%	22.8%
Moderate	13.9%	13.5%	18.1%
Severe	1.3%	2.5%	0.0%
ブラッシングによる出血(+)	n=157 19.1%	n=350 21.1%	n=119 10.1%
		*	*

\*:  $p < 0.05$

### 【結果及び考察】

本調査の10歳～12歳の結果を表に示した。視診による評価で、Mild以上所見所有者の割合は、トンガタブ本島（町）53.8%、トンガタブ本島（村）51.5%、離島40.9%であった。低年齢の結果は表に示されていないが、年齢の増加に伴い、異常を認める者の割合も増加傾向にあった。参考に調査した同年齢日本学童の値は77.6%であった。

出血（+）者は、トンガタブ本島（町）19.1%、トンガタブ本島（村）21.1%、離島10.1%であった。離島ではトンガタブ本島（町）、トンガタブ本島（村）に比べ有意に低い値であった（ $p < 0.05$ ）。また、日本の10歳～12歳の出血（+）者率は58.8%で、トンガ王国の方が有意に低かった（ $p < 0.01$ ）。

歯肉炎の状態はトンガ人の学童は日本の学童よりも状態が良く、トンガ王国では離島の学童は本島の学童より良いと思われる。近代化、食生活の違いが主な原因として考えられるが、離島の学童は就寝前歯磨きの励行、フッ化物歯磨剤の使用し、伝統的な食品（イモ類）を好みまた飲料水のフッ化物イオン濃度が離島では0.54ppmでありこの様な差が要因と考えられる。

ブラッシングによる出血の有無評価法は、簡便で、動機づけにも有効な方法と考えられ、本法によるスクリーニングは個別的な歯科保健指導に活用できると思われる。今年度のデータをベースラインとし、歯周疾患改善の到達目標の設定を行い、より効率的な予防プログラムに繋がられるものと期待される。

### 【謝辞】

南太平洋医療隊の活動にご支援・ご協力をいただいた日本大学松戸歯学部衛生学講座  
日本大学松戸歯学部国際保健部、トンガ国立VAIOLA病院に感謝いたします。